



28 インド アジャンタ・ エローラ遺跡 保護・観光基盤整備事業(1)

世界遺産の保護・観光基盤整備により
観光振興と周辺地域の経済活性化に貢献

承諾額／実行額 37億4,500万円／37億4,500万円
借入契約調印 1992年1月
借入契約条件 金利2.6%、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイド
貸付完了 2002年3月
実施機関名 観光省 URL: <http://www.tourisminindia.com/>
(各コンポーネント実施機関としてマハラシュトラ州観光公社、国立インド考古学研究所等全7機関)

本事業の目的

マハラシュトラ州にあるアジャンタ・エローラ石窟寺院群遺跡にて、遺跡保護や周辺自然環境改善、インフラ整備等を実施することにより、観光産業の振興をはかり、地域経済の活性化に寄与することを目的とする。

本事業実施による効果(有効性・インパクト) **a**

本事業により実施された遺跡保護作業は、一部計画に変更があったものの、光ファイバーによる照明設置は壁画の保護に配慮しながら公開することを可能にし、排水路の整備は表流水の遺跡への流下を減少させ遺跡劣化の軽減に寄与した(詳細はテーマ別評価(P.57)を参照)。観光振興に向けたインフラ整備として、道路・空港改良、上水道整備、および送変電施設の設置が行われ、いずれも計画通りに実施されている。また、遺跡周辺の自然環境の改善を目的とした植林については過去3年の活着率も一時早魃等により減少したが、3地区のうち2地区で72%、85%を達成している。さらに、観光施設の運営改善を目的として、低公害ディーゼルバスの導入、遺跡の広報、案内板の設置、造園・美化整備、および給水装置の設置が行われた。総合的なインパクトとして、観光収入が事業実施前の27億ルピーから実施後34億ルピーに増加しており、地域経済の活性化に寄与しているといえる。よって、本事業の実施により概ね計画通りの発現がみられ、有効性は高い。



アジャンタ石窟上部の排水路



アジャンタ遺跡
地区周辺の
植林



アジャンタ遺跡地
のエコバス

本事業実施と国家計画等との整合性(妥当性) **a**

本事業は、審査時および事後評価時ともに国家計画等と合致しており、事業実施の妥当性はきわめて高い。なお、周辺の石窟寺院群の保護、観光施設の更なる充実等を目的とした後続事業としてフェーズ2が実施中である。

事業実施の経済性(効率性) **b**

事業費については計画を下回ったものの(計画比92%)、事業期間が計画を大幅に上回ったため(計画比205%)、効率性についての評価は中程度と判断される。事業遅延の要因としては、関係機関間の連絡・調整不足、各種工事のための許認可取得に時間を要したことなどが挙げられる。

今後の展望(持続性) **b**

本事業は上水施設の運営管理において、職員の専門知識の不足や維持管理予算の不足という問題があるものの、持続性は概ね問題ないと評価される。

教訓・提言

以上により、本事業の評価は高いといえる。教訓・提言としては、複数の関係機関が効率的に事業を実施するための組織的な調整メカニズム導入の検討、および遺跡保護事業の効果持続のための人材育成を視野に入れた事業実施の必要性が挙げられ、これらをフェーズ2の事業実施に生かすことが望まれる。

開発途上国専門家の意見

本事業は、観光客の利便性の向上への取組みや光ファイバー照明による壁画への配慮は評価できるが、世界標準に照らせば一部改善の余地がある。

専門家の氏名: Mr. Kuldip Nayar (マスコミ)
グル・ナナク・デブ大学博士(哲学)。現在、フリージャーナリスト。
元上院議員、元イギリス特使、元国連代表。専門は外交。